

第17回新生匠瑳戦略会議 会議録（概要版）

開催日時：平成24年7月5日（木）

午後7時00分～8時40分

開催場所：八日市場ドーム選手控室

出席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃、渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、萱森孝雄、橋場永尚

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、永野亮太、林暁男、八木幸市

（11人／名簿順）

欠席委員：（団体推薦者）安藤建子、越川竹晴、越川八代枝、鈴木和彦

（4人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）小川課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

2 あいさつ（省略）

3 議 事

（1）提案書（中間報告）について

- ・今回提示する中間報告では、新たに6章を追加し、内容は飯高地区を中心に記述している。本日はこの内容について検討していただきたい。
- ・戦略会議が客観性を持って語れる場だとすれば、結果はどうであれ、旧飯高小学校に対する対応の仕方には反省すべき点があったのではないかと思う。そのことが中間報告に入っていることは好ましいことだと思う。
- ・グリーン・ツーリズムという言葉が入っていることにより、わかりやすくなることもあれば、陳腐なイメージを持たれる可能性もあるので、そうならないように注意する必要がある。
- ・特別支援学校と連携することでグリーン・ツーリズムが活かせるよう、具体的に書いてしまうのも一つの手だと思う。
- ・先入観があるかもしれないが、特別支援学校の現状を考えると、地域との交流は難しいのではないか。
- ・たとえ中間報告で「J T跡地に市民病院を」と書いたとしても、結局他人ごとの意

見なので市の決断材料にはならない。

- ・市民病院のあり方検討委員会では財政的なことはわからないが、地域のために、病院が生き残るためには、新築以外の方法はないという結論になっている。
- ・元々飯高を含むゾーンは自然や文化を活かすような位置づけになっている。自然環境の良いところに特別支援学校の生徒たちが来ることになるので、この自然を活かして地域とのつながりを持ってもらいたい。
- ・開かれた特別支援学校にしていくということが地元で迷惑にならないように、開かれた運営がされるようにこちらからしかけていくという提案を、中間報告に入れておくのは意義のあることだと思う。
- ・基本的考え方の図に、病院や飯高地区を当てはめて考えてみると具体的にイメージがしやすく、考え方や仕組みが生きる補論になるのではないか。
- ・普通学校に特別支援学級がある場合、教員の補助をする人をその地域で雇っているところがある。そういう支援体制を地域で提供する代わりに、学校からも外に出てきてもらい、こちらの中に入れていくという、お互いに要求しあう関係を作っていくか前には進まないと思う。
- ・地域で支える特別支援学校があってもいいし、先入観だけでできなかったこともあるかもしれない。できるかどうかではなく、地域がどうしたいのかが大事である。
- ・交流やボランティアで地域が関与するだけだと、長続きしない気がする。何か商行為に発展するような、お金が動くような仕組みを作っていくか前には進まないのではないか。
- ・グリーン・ツーリズムという言葉は使ったが、地域内での交流だけではなく、もうちょっと広い意味での市外との交流で、里山や檀林を考えていきたい。
- ・ふれあいパーク設立当初は、都市と農村の交流の場であって、販売を中心に考えてはいけなかったと言われていた。しかし、それだけではダメだと思っていたので、販売にも力を入れることにしていた。
- ・ふれあいパークのウリは、地元の農家が農薬問題に真剣に取り組み、まじめに物を作っているということである。一時は全ての生産者の写真を掲載していたこともあり、品質よりもまず安全を第一に考えた。また、販売だけでなく、農業体験や里山ハイキングなど、市外との交流も行っている。
- ・「里山・檀林ふおーらむ」を開催したときに、地域交流の視点から、里山・檀林とふれあいパークを結びつけたいと発言している人がいた。これをきっかけに何かできないだろうか。
- ・ふれあいパークとしては、まず、生産者の意識を変えたいという考え方でスタート

した。農協などは色や形を重視するが、ふれあいパークは大きくても小さくても、本当に良い物は形にはこだわらないという売り方をしている。小さく形の悪いものでも味は良いということが、ロスの削減にもつながっている。

- 干潟で牛に口蹄疫（こうていえき）が出たとき、それ以降、わらなどを使って循環型の農業を始めた経緯がある。そういう大きな構造まで変えてしまうようなことが匝瑳市でできないだろうか。
- 食べ物で一番大事なことは、見た目や味より安心・安全である。循環型農業の利点は、他から飼料等をあまり買わないようにすることで、病気感染などのリスクを回避する点にある。日本の農業の自給率が徐々に下がっていく中で、海外産の安い農産物にどう対抗していくかが課題となる。日本の農家としては、安心・安全が唯一の強みである。
- 飯高の人は本当の意味で困っていないのかもしれない。商店街の議論でもそういう話が出たが、本当に困っていれば何らかの動きが出てきてもいいはずである。
- 何かやりたいという人はいると思うが、そういう人たちを中間報告のしくみ図に当てはめたとき、どこにどう働きかけていったら実現できるのか、それが見えてくればもう少し動きが出てくるような気がする。個々でこうしたいと思っても、そこまですべて終わってしまっていて、その思いを拾い上げて、一つの大きな動きとしてまとめられていないのだと思う。
- 具体例とは言わないまでも、基本的考え方の図を動かしていく具体的な装置が用意されていれば市民も動きやすいと思うので、その装置の具体的イメージを提示してはどうか。
- 今後地域づくりを進める上で、ある程度計画的に内なる伝道師を育成したり、ヨソ者視点の伝道師とのコンタクトを計画的に図ったりすることが必要になってくるのではないかと。
- J T跡地については、暫定的に商業利用が可能だとして、ここを拠点に中間支援機能のようなものやってみようという人やグループを募集すれば、日本財団などもこういう活動に助成してくれるので、市の力を借りずとも、きっかけはそういうところから生まれてくる。
- 若者、バカ者、ヨソ者という人たちが自分ごととしてやっていく中で、多くの人を巻き込んで、実践の中で積み上げていくことが重要になってくる。そういう試行錯誤を繰り返していく中で、何年か後に花が開いている状態に巡りあえるのだと思う。
- 中間報告の内容でこれまで指摘のあった箇所は修正し、出来上がったものを全委員に送付する。内容を確認し、問題がなければ市へ提出することとする。

(2) その他

次回の会議日程は7月30日(月)とし、午後7時から匝瑳市役所議会棟第3委員会室で行う。